

# Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名：第3次産業活動指数(1月)

発表日：3月24日(木)

～ 1月の経済活動の好調さを確認 ～

(No. J-137)

第一生命経済研究所 経済調査部

担当 副主任エコノミスト 新家 義貴

		第3次産業活動指数		電気・ガス・熱供給・水道業	情報通信業	運輸業	卸・小売業	金融・保険業	不動産業	飲食店 宿泊業	医療、福祉	サービス業
		前期比	前年比	前期比	前期比	前期比	前期比	前期比	前期比	前期比	前期比	前期比
03	1-3月	0.7	0.6	0.5	0.4	0.0	0.7	0.5	0.3	0.3	1.6	1.2
	4-6月	0.1	0.8	1.2	2.3	1.4	0.0	1.3	1.2	1.6	0.5	0.2
	7-9月	0.1	0.1	3.2	1.7	0.9	1.0	2.5	0.2	0.1	1.0	0.4
	10-12月	1.0	1.8	1.9	3.5	0.3	1.2	0.8	0.2	1.9	0.6	0.5
04	1-3月	0.1	2.4	1.7	3.8	0.5	0.1	0.8	0.4	0.5	1.2	0.5
	4-6月	1.6	2.3	2.0	2.7	0.3	0.1	3.2	1.7	1.0	0.8	2.9
	7-9月	0.3	2.2	0.1	4.1	0.6	0.2	2.4	0.1	1.5	0.6	1.2
	10-12月	0.6	1.7	2.9	6.2	0.3	0.1	0.4	0.3	0.8	0.0	0.9
03	1月	1.4	0.7	0.7	0.6	0.3	2.5	0.0	1.2	0.1	1.3	1.0
	2月	0.1	0.9	1.1	1.5	0.1	0.3	0.8	0.6	0.5	0.4	0.4
	3月	0.2	0.2	2.1	2.5	0.2	0.6	1.2	0.4	1.0	0.1	0.7
	4月	0.0	0.3	1.1	2.4	1.5	0.1	0.5	0.8	3.1	0.3	0.5
	5月	0.4	0.6	1.5	1.0	0.5	1.0	0.9	1.1	1.5	1.5	0.3
	6月	0.1	1.6	0.2	5.3	0.0	0.6	2.2	1.1	0.2	0.9	0.4
	7月	1.4	1.3	9.1	7.3	0.6	1.6	0.1	0.3	1.0	1.2	0.0
	8月	1.5	0.1	7.8	3.5	0.1	1.2	0.4	1.6	0.8	0.7	0.8
	9月	0.8	1.7	5.5	1.7	0.1	0.0	1.5	0.6	2.6	0.9	0.3
	10月	0.8	2.5	3.8	0.4	1.3	3.0	0.6	1.1	0.1	0.6	0.0
	11月	1.2	0.5	0.6	0.3	2.0	3.6	0.7	1.0	0.4	0.5	0.2
	12月	0.0	2.4	0.4	2.1	0.7	0.6	1.5	0.3	2.5	0.1	0.4
04	1月	2.1	2.6	2.9	3.7	0.6	3.6	2.5	0.1	2.2	2.4	2.3
	2月	3.5	2.6	2.8	2.2	2.7	4.1	3.1	3.3	0.2	3.8	3.9
	3月	1.6	1.9	1.8	0.4	2.7	0.4	4.8	3.8	1.0	4.6	0.1
	4月	2.2	3.3	0.1	4.1	0.2	2.7	2.4	0.2	0.2	0.8	4.2
	5月	1.1	0.8	2.2	3.5	1.1	3.2	1.0	0.0	0.6	0.3	0.4
	6月	0.9	2.8	0.5	6.2	1.4	2.5	1.8	0.6	0.5	1.3	0.8
	7月	0.8	3.0	0.6	11.1	1.0	0.8	1.4	0.6	0.3	0.7	0.9
	8月	0.3	2.2	3.5	6.0	1.5	1.0	0.6	0.7	4.1	1.3	0.2
	9月	0.3	1.5	2.4	2.4	0.3	1.3	0.5	0.5	3.3	0.6	1.7
	10月	0.0	0.3	1.8	1.7	0.8	1.8	0.1	0.9	1.9	0.5	1.9
	11月	0.4	2.7	1.9	0.8	0.2	1.0	0.7	1.6	1.9	0.9	2.3
	12月	0.0	2.2	0.9	4.3	0.9	0.1	1.6	0.6	4.9	0.2	0.5
05	1月	2.2	2.5	4.7	7.9	0.6	5.9	3.0	0.6	0.1	2.6	1.3

(出所) 経済産業省「第3次産業活動指数」

## 1月の好調さを確認

1月の第3次産業活動指数、全産業活動指数は揃って良好な内容となり、1月の経済活動がかなり堅調に推移していたことが改めて確認された。

2005年1月の第3次産業活動指数は前月比+2.2%となり、市場予想(コンセンサス+1.1%、レンジ 0.2~+2.0%)を上振れた。事前に公表されていた統計が強かったため、かなり高い伸びになることは予想できていたのだが、卸・小売業の上昇寄与が予想以上に大きかったことが全体を大きく押し上げた。卸・小売業の全体への寄与度は同+1.4%P(前月比+5.9%)と、上昇のかなりの部分を説明する。気温低下による季節商品の販売増加から衣料品や飲食料品の販売が増加したことや、デジタル家電が販売好調だったことなどが背景にある。昨年10-12月期の個人消費は、台風等の自然災害による外出機会減少や暖冬による季節商品の需要停滞が家計の消費支出を抑制した、台風による作物被害等により生鮮野菜の価格が上昇し、これが家計の購買力(実質所得)を抑制した、などの非経済的要因により押し下げられていたと考えられるが、年明け以降にはそうした要因が剥落した結果高い伸びとなったと考えられる。今月の第3次産業活動指数は、1-3月期の個人消費が10-12月期の低迷から抜け出し、底堅く推移することを示唆する内容といえる。全体としてみれば、第3次産業活動指数の緩やかな改善トレンドが続いていると評価して良いだろう。

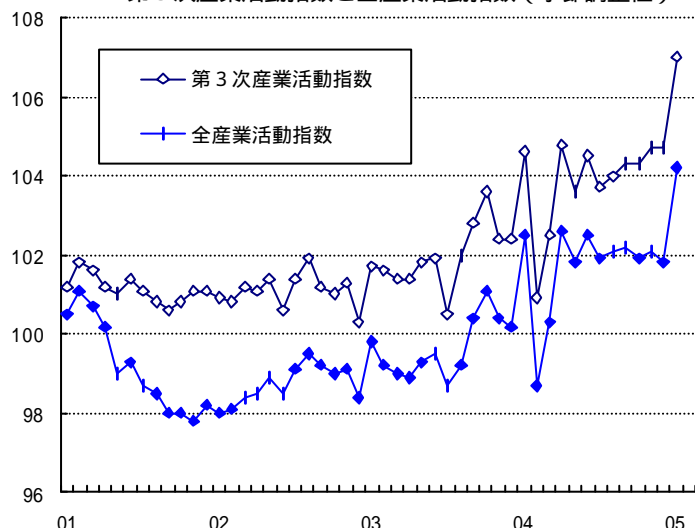
### 全産業活動指数も堅調

同時に公表された1月の全産業活動指数も前月比+2.4%（コンセンサス+1.5%、レンジ+0.8~+2.3%）と高い伸びとなった。第3次産業活動指数の上昇に加え、鉱工業生産指数が1月は大幅に上昇していたことが寄与した。1月の対10-12月期比は+2.3%となっている。全産業活動指数は供給側からみたGDPとも言われており、日本経済が昨年後半の停滞状態から徐々に抜け出しつつある可能性が示唆されている。

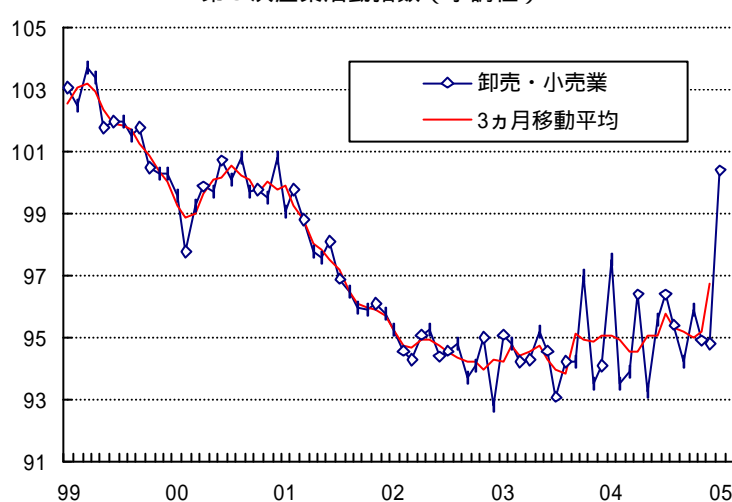
### 2月の経済指標は弱め

もっとも、この1月の上昇は、昨年12月に暖冬等の特殊要因によって押し下げられていた部分の反動という面も大きい。2月に関してみれば、消費関連統計、生産統計などでは、1月の高い伸びの反動や旧正月要因の反動等もあって、比較的低調な結果が見込まれる。日本経済が既に踊り場を脱したと言えるだけの証拠はまだ不十分だ。2月のやや弱めの指標のあと、3月の経済指標がどの程度の回復を示せるかが今後の踊り場脱出を判断する上での一つのポイントになるだろう。

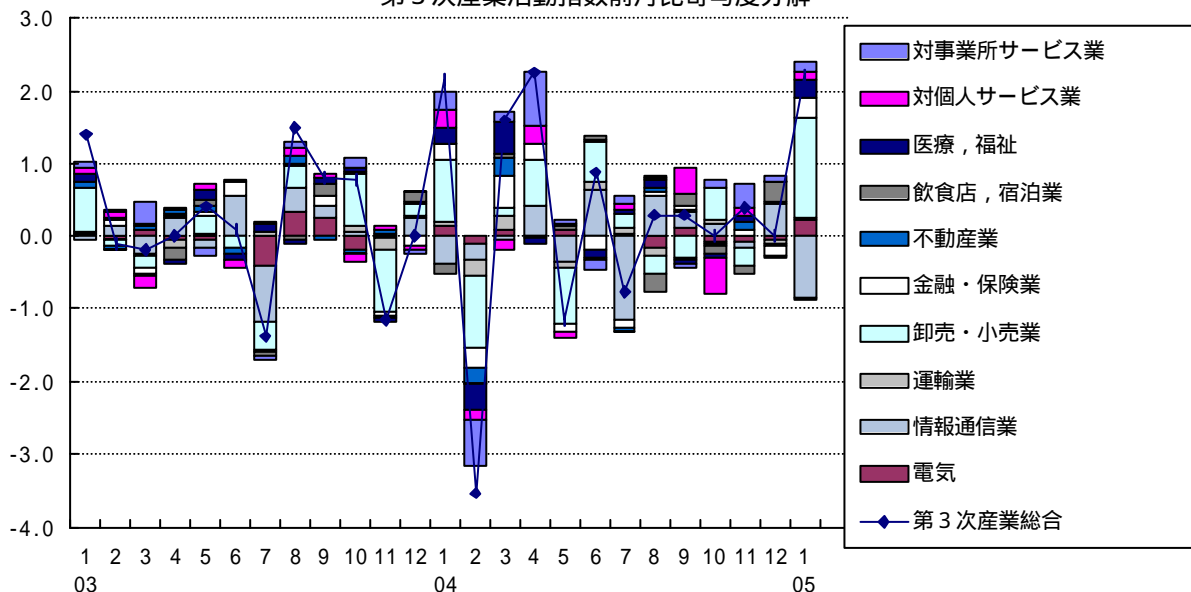
2000年=100 第3次産業活動指数と全産業活動指数（季節調整値）



第3次産業活動指数（季調値）



(%) 第3次産業活動指数前月比寄与度分解



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。